中学歴史プリント（過去問類似）
弥生時代

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／9

問1 弥生時代に現れた環濠集落は、それ以前の縄文時代の集落とは大きく異なる社会背景を持っています。このような形態の集落が全国的に出現した理由として、最も適切な説明はどれですか。 （2021年　愛知公立入試　類似）

1. 稲作による生産力の向上で蓄えが生まれた結果、土地や水をめぐる集団間の争いが激化したため

2. 大陸との交易で得た貴重な青銅器や鉄器を、雨風や火災から物理的に保護する必要が生じたため

3. 大規模な洪水被害から住居を守るために、集落の周囲に巨大な排水路を設ける必要があったため

4. 渡来人から伝わった仏教の寺院を建立するにあたり、聖域と世俗の居住区を明確に区別するため

問2 島根県の荒神谷遺跡や加茂岩倉遺跡では、大量の銅剣や銅鐸が一箇所に埋められた状態で発見されている。これらの金属器が、当時の社会において果たしていた役割について説明したものとして、最も適切なものはどれか。 （2022年　島根公立入試　類似）

1. 五穀豊穣などを祈るための祭礼用の道具として用いられた

2. 大規模な森林を切り開くための伐採具として用いられた

3. 他の集落との戦争において、殺傷能力の高い武器として実戦で用いられた

4. 米などの収穫量を正確に計測するための度量衡として用いられた

問3 縄文時代末期に大陸から北九州地方へ稲作が伝来したことにより、その後の社会の仕組みはどのように変化しましたか。最も適切な説明を選びなさい。 （2016年　奈良公立入試　類似）

1. 食料の保存が可能になったことで、蓄えの多寡による富の差や、土地や水をめぐる争いが生じるようになった。

2. 全国で狩猟や採集が完全に行われなくなり、全ての集落が移動をしない定住生活を同時に開始した。

3. 大陸との交易が独占されたため、各地の集落が独立したまま争いのない平和な時代が続いた。

4. 米を貨幣として使用する制度がすぐに確立し、中央集権的な国家が全国に一斉に誕生した。

問4 弥生時代に中国や朝鮮半島から伝わった鉄の利用について、当時の社会に与えた影響を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 （2018年　奈良公立入試　類似）

1. 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。

2. 土偶の表面を細かく削り出すための彫刻用具として、全国で広く普及した。

3. ナウマンゾウなどの大型の獣を捕らえるための、強力な打製石器の材料となった。

4. 須恵器と呼ばれる硬い土器を焼くために、窯の温度を上げる燃料として利用された。

問5 1世紀半ばに日本の「奴国」の王が中国へ使者を送り、皇帝から金印を授かったという出来事が記されている、当時の中国の歴史書として正しいものを答えなさい。 （2016年　大阪公立入試　類似）

1. 後漢書　**2.** 魏志　**3.** 史記　**4.** 日本書紀

問6 弥生時代に作られた青銅器のうち、釣鐘のような形をしており、表面に流水などの幾何学模様が施されている祭祀の道具を何というか。 （2026年　新潟公立入試　類似）

1. 銅鐸　**2.** 銅鏡　**3.** 銅剣　**4.** 石包丁

問7 弥生時代に稲作が普及すると、土地や水の利用をめぐる集団間の争いが起こるようになりました。こうした外敵の攻撃から集落を守るために、周囲に深い堀や柵を巡らせた当時の集落の形態を何といいますか。 （2021年　愛知公立入試　類似）

1. 環濠集落　**2.** 高地性集落　**3.** 竪穴住居　**4.** 高床倉庫

問8 弥生時代の社会状況を示す事例として、香川県にある紫雲出山遺跡のように、瀬戸内海を一望できる高い山の上に作られた「高地性集落」があります。卑弥呼が邪馬台国を治めていた時期を含め、このような特殊な場所に集落が作られた理由として、当時の社会背景を説明したものを選びなさい。 （2021年　香川公立入試　類似）

1. 大陸から伝来した仏教を修行するための山岳寺院を建てる必要があったため。

2. 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。

3. 遣隋使や遣唐使として派遣される人々を、高い場所から見送る儀式を行うため。

4. 白村江の戦いで敗れた後、唐や新羅の侵攻に備えて防衛拠点としての城を築いたため。

問9 中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、1世紀半ばの57年に倭の奴国の王が使者を送り、皇帝から印綬（印と紐）を授かったという記述があります。このとき授けられたとされる「漢委奴国王」と刻まれた金印が、江戸時代に発見された現在の福岡県にある場所はどこですか。 （2023年　大阪公立入試　類似）

1. 志賀島　**2.** 壱岐　**3.** 対馬　**4.** 種子島

答え合わせ・解説

問1	**答え 1** **稲作による生産力の向上で蓄えが生まれた結果、土地や水をめぐる集団間の争いが激化したため**	本格的な稲作の開始は、人々に安定した食料をもたらしましたが、同時に「富の蓄積」と「貧富の差」を生み出しました。これにより、条件の良い耕作地や農業用水を独占しようとする集団同士の対立（戦争）が始まりました。自分の集落を守るために防御機能を備える必要があったことが、環濠集落が普及した最大の背景です。
問2	**答え 1** **五穀豊穣などを祈るための祭礼用の道具として用いられた**	弥生時代の青銅器は、刃が薄く作られているものや、大型化して音が鳴らなくなったもの（銅鐸）があることから、武器や道具としての実用性は低かったと考えられています。これらは集落の共同体で共有され、五穀豊穣や魔除けを祈るための「祭祀の道具」として、神聖な儀式に用いられていました。
問3	**答え 1** **食料の保存が可能になったことで、蓄えの多寡による富の差や、土地や水をめぐる争いが生じるようになった。**	稲作によって収穫された米は、それまでの狩猟・採集による食料とは異なり、長期保存が可能でした。これが余剰生産物としての「富」を生み、それを管理するリーダーの出現や、有利な土地を確保するための集落間の紛争、さらには身分の格差へとつながり、社会の構造を大きく変える要因となりました。
問4	**答え 1** **木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。**	弥生時代には、大陸から鉄器と青銅器がほぼ同時に伝来しました。鉄は硬くて鋭利な性質を持つため、木製農具の先に取り付けて土を掘り返しやすくしたり、木工具や武器として利用されたりしました。これにより、石器を使っていた時代に比べて稲作などの作業効率が劇的に改善されました。なお、青銅器は主に祭祀（お祭り）や儀式のための道具として使い分けられました。
問5	**答え 1** **後漢書**	西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から金印を授かった事実は『後漢書』東夷伝に記されています。江戸時代に志賀島（福岡県）で発見された「漢委奴国王」の金印は、この記述を裏付ける重要な史料となりました。3世紀の卑弥呼について記された『魏志』倭人伝とは時代が異なるため、区別が必要です。
問6	**答え 1** **銅鐸**	弥生時代には大陸から金属器の技術が伝わり、青銅器と鉄器がほぼ同時に使われ始めました。青銅器のうち、釣鐘の形をした銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、豊作を祈るための祭りの道具として用いられたと考えられています。
問7	**答え 1** **環濠集落**	稲作の開始によって収穫物の貯蔵が可能になり、富をめぐる集団間の対立が発生しました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるように、当時の人々は居住区の周囲に堀（環濠）を掘ったり、木の杭による柵を設けたりすることで、外部からの侵入を防ぐ工夫をしていました。これが環濠集落です。
問8	**答え 2** **稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。**	弥生時代は稲作による余剰生産物が生じたことで、富の蓄積や階級の差が生まれ、各地で土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。瀬戸内海沿岸の山頂付近にある紫雲出山遺跡のような高地性集落は、敵の動きをいち早く察知し、集落を守るための軍事的な拠点としての役割を担っていました。中国の歴史書に記された「倭国大乱」も、こうした激しい社会状況を裏付けています。
問9	**答え 1** **志賀島**	1784年に福岡県の志賀島で農作業中に偶然発見された金印は、縦横約2.3cmの純金製で、「漢委奴国王」の五文字が刻まれていました。これは『後漢書』にある「建武中元二年、倭の奴国、貢を奉じて朝賀す…光武、賜うに印綬を以てす」という、後漢の光武帝が奴国の王に印を与えたとする記述を証明する非常に重要な歴史的発見となりました。